

平成27年度

射水市豊かな海を愛する会 活動報告

国民の 生命・財産の保全

国境の警備
水域の監視
海難救助、災害を防ぎ
救援する機能



水産業・漁村の 多面的機能

地球環境保全

藻場・干潟・ヨシ帯・サンゴ礁等の保全
魚介類の種苗放流
内水面生態系の保全
海洋汚染への対応体制整備
漂流・漂着物、堆積物処理など



漁村文化の継承

教育と啓発の場の提供
漁村の伝統文化・食文化等の
伝承機会の提供



もくじ

1 「射水市豊かな海を愛する会」における活動報告	NPO 富山湾を愛する会	2
2 六渡寺海岸清掃ボランティア活動報告	庄西地域振興会	8
3 自然との共生のできる海岸を夢見て	海老江地域振興会	10
4 アユが上る清流庄川の環境を守る	大門漁業協同組合	11
5 育てる漁業を体験しよう!!	堀岡養殖漁業協同組合	12
6 「環境を学ぶ・環境から学ぶ」	放生津小学校	13
7 豊かな海づくり報告	堀岡小学校	14
8 川の森づくり活動報告 ーふるさとの自然を守り、育て、伝えていこうー	小杉小学校	15
9 ふるさとの水で育つ大門っ子	大門小学校	16

1 「射水市豊かな海を愛する会」における活動報告

NPO 富山湾を愛する会

1 はじめに

今年は射水市がメイン会場となって全国豊かな海づくり大会が開催され多くの人が富山湾に注目した。当会も「射水市豊かな海を愛する会」活動の一環として藻場の保全と教育啓発事業に携わった。

藻場保全に関しては、昨年に引きつづき射水市海老江地先において藻場造成実証試験を継続した。毎月の潜水観察とあわせ、海藻の生育状況と実験機材の保守を行い周辺の中景観を記録した。

4月には、射水市海老江地先の海でアマモ苗の移植事業が実施された。海洋環境保全の意識高揚へ向けた県の支援を受け、前年11月から射水市立東明小学校、片口小学校及び新湊小学校の児童がアマモの苗を育て、氷見高校の生徒諸君が水中移植作業を行った。移植されたアマモは順調に生育し現在に至っている。適切な移植時期と牡蠣殻を使った根固めが功を奏した。

マクサとアカモクが母藻投入周辺岩場に自生するようになった。作業を継続している成果と考えられる。当実験域における海藻の成長にはいくつかの阻害要因があるが、設置したスポアバッグや海藻表面の泥様の付着物が何ものか究明する必要がある。ある人は藍藻の類と言うが、いまのところ正体不明である。

今年度は人工リーフの南東隅を新たな実験区域に定めた。母藻を移植して、ウニなどの食害生物を集中駆除した。採捕したウニは、昨年同様に農園で土壌改良肥料として活用している。

海洋の教育・啓発に関連して、講演、活動内容の展示会、公開セミナー、海辺ウォーキング、そして海藻

おしぼ教室などを行った。

また、海老江浜公園の砂浜に自生する海浜植物の状況観察を例年通り実施した。

2 海藻の観察記録

(2015年1月～2015年12月)

植栽している海藻はアカモク、ヤツマタモク、イソモク、クロモ、マクサである。アカモクとマクサは周辺海域で採取して母藻とし、ロープに取りつけたり、スポアバッグに入れて移植した。以下に毎月の海藻の生育状況等を示す。

2015.1.5



アカモクは食害のため小さい 天然マクサのロープ移植 ロープで成長するアカモク

2015.2.22



自生する多数のアカモク幼体 25年ロープのアカモク生殖器床 新エリアのウニと巻貝

2015.3.3、3.16



天然マクサ スポアバッグのアカモク(生殖器) ウニの除去重点区域を設定

2015.3.30



ブロック・アカモク幼株の成長良好 前年にロープ移植したアカモク 同マクサの生育良好

2015.8.30



ブロックの夏枯れアカモク 新エリアの緑藻と泥(紅藻はない) ゴロタ石のマクサ場

2015.4.25



バッグやアカモクに浮泥が付着・バックの損傷も見られる クロモのような紐状の個体と小さな緑藻が基質一面を覆う 消波ブロックのワカメ

2015.9.23



ブロックで更新するアカモク ロープのヤツタモクとコギリモク 移植ロープで繁茂するマクサ

2015.5.30



母藻移植アカモクの生殖器床 新実験エリアのスボアバッグ クロモ(ゴロタの石場)

2015.10.24



茎高50cmに成長 近くの岩場にアカモク若芽 ロープのアカモクも元気

2015.6.26



移植したアカモクの成長 自生するマクサ 空になったスボアバッグ

2015.11.1



ブロックのアカモク ブロック周辺の自生海藻 ロープ周辺の自生海藻

2015.7.2



ロープのマクサ、ヤツタモク、ミル 礎石に自生する紅藻 新エリアに自生するマクサ

2015.12.15



27年度エリアでウニ採捕 ブロックのアカモク2mに成長 周辺のアカモク

2015.7.26



ロープに移植したアカモク 食害生物の除去 新エリアのマクサ(巻貝あり)



先月(11月1日)移植のアカモク 2mに急成長 基質で自生するアカモク

3 藻場づくり作業と教育・啓発活動の記録

2015年1月26日

海藻の食害生物除去作業を行った。冷たいが、ウネリがなく絶好の作業日和。ウニは梨農園の土づくり及び肥料（梨の果皮を強くする）に活用中。7人参集、水温 12 度。



ウニの除去作業を行う 採捕したウニ2かごは肥料に 海老江漁岸壁のアカモク

2015年3月2日、3日

藻場づくり作業（母藻の移植）を行った。2日の潜水では実験海域で縄の張替と小型巻貝2囊を採捕した。3日はアカモクのスポア・バッグ15個を作成し、実験海域に設置した。11名参集、凧、気温0度、水温11度。



ミゾレ、縄の張替と巻貝の採捕 アカモクの母藻を採取 スポアバッグの製作

2015年3月21日

磯部宏氏（射水市農林水産課海づくり推進班班長）が第210回富山湾に学ぶ会例会（とやま市民交流館）で講演。全国豊かな海づくり大会の開催意義、射水市の漁業の特色、富山湾に活かされた射水市という内容で熱弁をふるわれた。



射水市の海を熱く語る磯部氏

2015年3月30日

食害生物の除去および実験資器材の点検を行った。人工リーフ南東隅に新たな実験区域を設定し、場所を指示する。大量のウニを採捕したが、ほとんど身入りが無い。岸壁のアカモクはいつの間にか姿を消してい

た。10名参集、晴れ。



10名が参集



人工リーフに向う



捕獲したウニと小型巻貝

2015年4月28日

アマモ苗の移植を行った。県が支援する海の森づくり事業として射水市の小学生がアマモの苗を育て、氷見高校の生徒が海老江地先の海に移植した。苗の固定に牡蠣殻を使用する工夫がなされた。



苗を手渡す東明小学校6年生



受けとった苗を移植する氷見高生



全国豊かな海づくり大会へ向けて

2015年6月10日

NPO 法人富山湾を愛する会第7回通常総会を開催した。

2015年7月20日～29日

NPO 富山湾を愛する会活動内容の展示会を、射水市中央図書館ギャラリーにおいて開催した。藻場造成の試み、水中カメラマンが見た海中の四季、内川の水質環境調査、富山湾の海潮流観測結果、海老江海岸・岩瀬浜における海浜植物の生育状況を紹介した。



会場準備(7月19日)



訪問者に対応する林節男会員



展示会場

「私たちの海—富山湾は四季折々に豊かな表情を見せてくれる美しい海です。しかし海中では多くのごみを見かけることもあります。私たちの心がけでこの海をもっと美しくできるのではないのでしょうか」（水中カメラマン大田希生会員のパネルより）

2015年7月25日

NPO 富山湾を愛する会の公開セミナー（射水市文化ホール研修室）を開催した。海の日と全国豊かな海づくり富山大会を迎えるにあたり、



休憩時の交流、屋外は猛暑

当会と富山湾のかかわりで4つの報告を行った。

1. 本会の紹介、富山湾の特性と海老江海岸における藻場造成の試み（石森繁樹会員）
2. 水中カメラマンがみた富山湾の四季（太田希生会員）
3. 富山湾と射水市海老江地区の今昔と海浜植物の観察（林節男会員）
4. 射水市内川付近の流れと水質環境調査、汚染フローの紹介（奥川光治会員）

以下は質疑応答にみられた意見である。

内川の水質改善に庄川から浄化用水を引いているがより効果的な導水・排水はできないか。

水質改善運動など街づくりには地元の郷土史をよく読み歴史を見直す必要がある。

食害を防ぐため採捕したウニの活用策として、深層水を利用した養殖を試みたらどうか。

日本海固有水の特徴は溶存酸素量が低いこと、といった認識違いもみられた。

2015年7月26日

食害生物の採捕とモニタリングを実施した。捕獲ウニ 150 個中に山椒ウニが1個体混じる。小型巻貝多数。参加者 8 人、透明度良好、大変暑い。



事前打ち合わせ



藻場づくり場に出航



採捕したムラサキウニと巻貝

2015年7月31日

「水産多面的機能発揮講習会」（金沢商工会議所）に参加した。水産庁、全国豊かな海づくり推進協会の挨拶に続き、石川、福井、長崎、三重及び静岡の地域協議会や活動組織から実践報告が行われた。「射水市豊かな海を愛する会」の活動も報告した（林、石森会員）。

2015年8月7日

「海と森を学ぶこども記者ツアー」（北日本新聞社、富山テレビ主催）事業に協力し、富山湾の藻場が果たす役割について話した（石森繁樹会員）。新湊漁業協同組合会議室に持ち込んだ褐藻、紅藻、緑藻を手にした豆記者たちは海藻の色合いを不思議そうに見つめていた。

2015年9月23日

藻食生物（ウニと小型巻貝）の駆除作業を行った。天気は良好であったがウネリが残り、波に酔うダイバーもでた。捕獲したウニ（4 籠）は農園の肥料として活用している。参加者 10 名、水温 22.5 度。



漁港岸壁に参集したダイバー 舟艇で人工リーフに向かう 採捕したウニの陸揚げ

2015年10月4日

富山県第 39 回視覚障害者文化祭において講演「富山湾と海の幸」を行った（石森繁樹会員）。富山県視覚障害者福祉センターにおける聴講者の前向きな姿勢と、活発な話し合いに感銘を覚えた。

2015年10月18日

「海辺ウォーキング in 海老江」を実施した。足洗老人福祉センター、海岸道路、練合^{ねりや}神明宮、海老江海浜公園の約 8km を散策した。神明宮では宮総代の五十

嵐繁氏と山田克二氏から絵馬と当地域の歴史について伺った。ここの鯨絵馬は昭和10年に練合の浜で鯨が捕獲された御礼として奉納されたものという。また、海上安全と大漁を願い境内には、海の方を向いて鳥居が建てられている。



五十嵐繁氏から説明を受けた



海上祈願の石碑



海に向いて建立された鳥居

2015年10月24日、25日

第35回全国豊かな海づくり大会―富山大会―が天皇皇后両陛下御臨席のもと射水市で開催された。海王丸パークでは各種の展示がなされ、急潮予報など水産・海洋関連の新たな情報が紹介された。体験コーナーでは海藻おし葉教室にたくさんの人が集まった。海上歓迎・放流行事に招待され、海王丸パークの会場で式典行事を観覧し、ヒラメとキジハタの稚魚を放流した。展帆した海王丸と岸壁に整列した新湊名物の山車が、美しかった。心配された天候にも恵まれ大会は成功裡に終了した。



企画展示・体験コーナー(海王丸パーク)



富山県栽培漁業センターのブース(24日)



海上歓迎・放流行事会場からみた曳山



同行事に参加した会員(25日)



翌日に寄り回り波が来襲(26日)

2015年11月1日

ロープを移設し、アカモク母藻を移植した。実験海域の基質岩で、自生するアカモク幼体が広範囲で視認できた。アマモはしっかり根付いた。参加者3人、水

温19度。



海老江海浜公園



アマモの観察



アカモクをロープに移植する

2015年12月1日

海藻おしば教室を射水市下村小学校で開催した。講師は海藻おしば協会会長の野田三千代氏。先生から海藻の種類や藻場の大切さを学んだあと3、4年生の児童27名はテングサやアオノリなど10種類の海藻を使って海藻おしばづくりに挑戦した。1週間後に届く作品が、未永くみんなの良い思い出になることを祈りたい。関係者40人が参加。



ワカメ標本を手にする野田先生



楽しい海藻おしばづくり



記念の集合写真

2015年12月8日

新エリアのウニを採捕した。舟艇のエンジン・トラブルでやむなく作業を中断した。海老江漁港所属船の網に多数のサルパ(尾索動物門)がひっかかる。湾内にサルパが大量発生か。参加者8名、水温13度。



新湊漁協海老江支所岸壁集合



人工リーフへ出航



ウニの捕獲

4 海老江海浜公園の海浜植物

今年も月初めに西側砂浜に自生する海浜植物の生育状況を記録した。ハマゴウが根茎を張って群落(20m×10m)を形成し、暖候期に青紫の美しい花をつけた。少数であるが食用になるハマボウフウも生えていた。



5 おわりに

特筆すべきは、全国豊かな海づくり大会が地元射水市で開催されたことである。車と人で混雑する海王丸パークの賑わい、式典行事、海上歓迎・放流事業及び各種の展示企画の盛り上がりを見ていると、水産多能的機能の現出を目の当たりにする頼もしさを感じた。この一大イベントが一過性のお祭り騒ぎに終わることなく、県民の海への関心が高まる機会になるよう祈りたい。

当会の活動も予定通り進行した。藻場づくりを標榜して母藻の移植、機材の保守、観察、記録報告を行ってきたが、今年はマクサとアカモクの子供が岩で独り立ちする姿に接することが多かった。アマモの順調な生育も今年が初めてであった。田植えの頃がアマモの移植にも適しているのであろうか。氷見高校の岡田先生（会員）の牡蠣殻を使った工夫が好結果を生んだ。

会の活動は例年会誌で紹介しているが、今年は展示会と公開セミナーを開き積極的な交流に心がけた。参加した方々の意見を直に聴くことができて勉強になった。

会の活動も7年が経過したが、来年は海藻に加えて海老江の海の微細藻類を観察したい。昔は海老江でよく魚が獲れたという。魚が少なくなった理由として水温上昇、築港、終末処理場建設等が話題になるが、意外にも餌のプランクトンが少なくなったとは聞かない。これが微細生物観察を行いたい理由である。

今年も多くの方にご支援とご協力をいただいた。第2回海藻おしば教室を開催するにあたっては野田三千代先生に大変お世話になった。新湊漁協の皆さんには作業遂行上のご理解とご助力をいただいた。藤岡農園代表藤岡生明氏にはウニの活用でご協力いただいた。

関係各位に衷心よりの感謝を申し上げたい。

（文責 石森 繁樹）

2 六渡寺海岸清掃ボランティア活動報告

庄西地域振興会

六渡寺海岸は西側に小矢部川の河口、東側に庄川の河口に挟まれ、両河川の最下流に位置し、延長 633m の緩やかな曲線を描く海岸であります。

海岸から東側を眺めれば海王丸の 4 本マスト、新湊大橋、北陸電力新湊火力発電所の煙突が有り、その背景には雄大な立山連峰の大パノラマが展開し、黒部市の生地鼻まで見渡せます。また、西側を眺めれば万葉集に出てくる二上山、岩鼻埼灯台、氷見、能登島、小木の九十九湾あたりまでのなだらかな稜線が見られるとても眺望の良い場所です。平成 26 年 10 月 18 日「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した所以でもあると思います。

ところが、足元の浜を見れば人間の活動を象徴する多くのゴミが漂着し、県内で一番の「漂着ゴミが多い海岸」となっています。

「これらの漂着ゴミはどこから来たのか？」六渡寺の住民は長年の経験から河川から流出したゴミの一部が漂着することを知っていました。

昭和 50 年代までは海岸で海水浴ができました。もっと以前の昭和 30 年代は小中学校の臨海学校が開催されていました。時代の変遷とともに我々の生活様式が変化し、漂着物についても大きな変化を遂げたと思います。

以前は、上流域や海岸でもゴミを焼却することが出来ました。ダイオキシンが社会問題となってからは焼却不可になりました。これらは石油製品の発達によるところが大きく、軽くて強くて耐久性があるなどの利便性から使用量が急激に増え、その一部がゴミとして

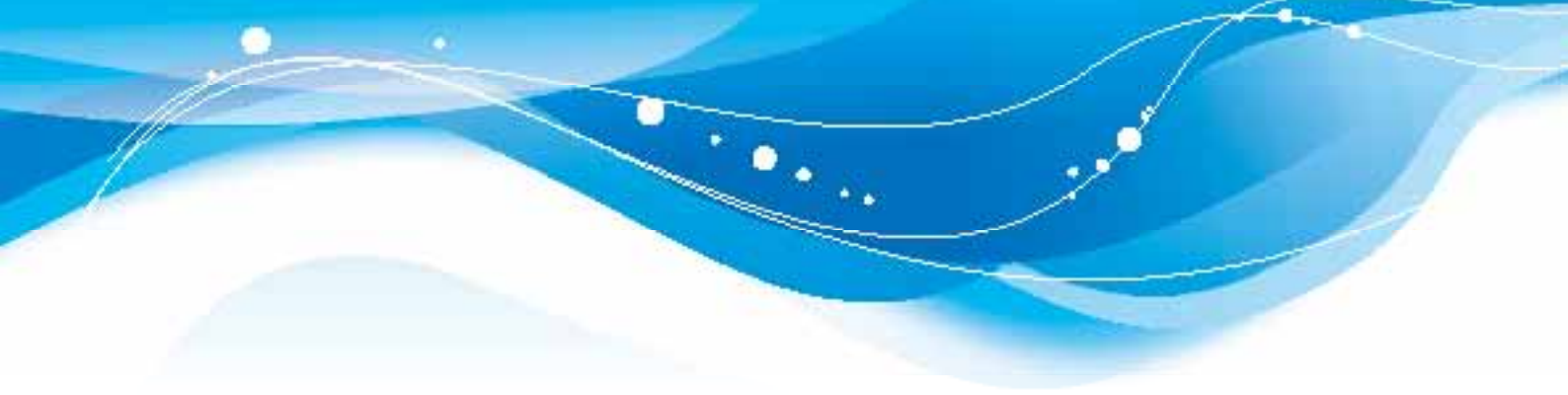
河川から海へ流出し拡散するようになっていきます。

この現状に対して平成 23 年 4 月、六渡寺海岸清掃ボランティアは以下の基本的目標を設定し、各行政や各種団体との（協働）を図ることを提案し実施しました。

- ・六渡寺海岸を泳げる海岸にする（行政との協働）
- ・地元自治会の「環境改善」、「安全・安心な街づくり」と協働する（自治会との協働）
- ・上流域も含めた環境改善への意識改革推進（各種団体との協働）

この願いが通じて平成 25 年 8 月 2 日に富山県が海岸漂着物対策推進協議会小矢部川流域部会を発足し、現在も活動中です。その活動実績としては、富山県生活環境文化政策課が小矢部川右岸への調査を実施し各河川からどのようなものがどれだけ流出しているかを一目で分かるようにした「小矢部川流域ごみマップ」を作成し、平成 26 年 3 月に公開しました。

これを受けて流域に関係する市や各種団体の方々は、発生するゴミの具体的な削減策をアクションプログラムとして表明するとともに、実施・発表し、平成 27 年 2 月に評価する改善のサイクルが回りました。最下流の我々住民にとっては大きな力添えと感謝しています。この間平成 26・27 年は実に多くの方々に六渡寺海岸へ来ていただきました。特に富山県生活環境文化政策課が企画した海岸漂着フォーラムでは各市（高岡市、砺波市、小矢部市、南砺市）でフォーラムを 2 年間開催し、実体験として大型バスで六渡寺海岸に移動して清掃活動を行っていただきました。平成 27 年度に六



六渡寺海岸清掃活動に関わった方々は、地元ボランティアの他、新湊高校ボランティア部、小杉高校ボランティア部、新湊中学校生徒会、小杉中学校、新湊小学校、富山県立大学環境工学部、富山情報ビジネス専門学校、いみずまちづくり大学、富山福祉短期大学、砺波市南部小学校4年生、南砺市連合婦人会・環境保健協議会、砺波市小杉地域環境保全推進委員会、射水市婦人会、小矢部連合婦人会、砺波般若地区連合婦人会、小矢部川流域地区環境衛生協議会、小矢部環境衛生協議会、射水市環境衛生協議会、大島地区環境衛生振興会、地球温暖化防止活動推進員、大越仏壇、JFE

マテリアル、三協立山株式会社、コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーン in 六渡寺海岸に参加された方々、日本釣用品工業界釣環境ビジョン水中清掃作業の方々、牧田組の皆さんで延べ人数1,400名を超えます。年々清掃活動に参加される団体数と人員が増えてきていて、六渡寺海岸清掃ボランティア員にとっては励みとなっていると共に感謝に堪えません。

また、海岸が少しでもきれいな状態であることが大きな喜びであり、今後も初期の目標を達成するまで六渡寺海岸清掃ボランティア活動を継続する所存です。



3 自然との共生のできる海岸を夢見て

海老江地域振興会

私たちが住む海老江地区は、新湊大橋の東、新湊ベイエリアの東部にあります。夜明け前、海岸に来て一望して見渡すと、西に新湊大橋、新湊マリナ、そして海老江海浜公園、東に目を向けると雄大な立山連峰がそびえ立ち、その隙間から太陽が昇りはじめる光景をよく見ることができます。まさに、射水市の夜明けがここ海老江地区から始まると自画自賛し、自然の恵みを浴びながら一日のスタートが始まります。しかし、この海岸も荒天時の風向きによっては美しい景観が一変して、上流や対岸の家庭廃棄物などが漂着し、一瞬にしてゴミの集積場となり、あらためて自然の恐ろしさを実感します。このような地域環境の中で、平成27年度地域振興会の海老江海岸一帯の清掃、美化活動の取組みを報告します。

海老江海浜公園美化委員会では、3月に海老江地区全域に海浜公園の海浜清掃、除草、防除及びトイレ清掃などの管理をしていただくボランティアの募集を行いました。これには約200名の応募があり、5月から年間を通して活動し、海浜公園の美化と安全、環境の整備に努めています。



7月の第1日曜日には、県下一斉に射水市誕生10周年も記念して富山県、射水市などが主催した「みんなできれいにせんまいけ大作戦 in 射水」が海老江海浜公園で開催されました。海老江地区住民、射北中学校生徒会、地元小学校の児童、地域内の運動に協賛している企業、主催団体の部署から総勢約1,500名が参加し、清掃活動に協力しました。また、7月18日にはきれいになった海老江海浜公園で、射水市で唯一の海水浴場でのシーズン中の安全を祈願する神事も行われました。10月18日には、射水市一斉クリーン作戦が開催され、市・環境部会、海老江地域の住民が参加し、海老江海岸の約3キロメートルにわたり海岸や地域の主要道路一帯の清掃活動を行いました。

私たちの先人・先輩からは、かつての海老江海岸は砂浜は広くきれいで、夏には昼顔が咲き誇り、子どもたちが野球をしたり鬼ごっこをしたり、地域あげて運動会をするなど楽しく遊んだという話をよく聞きました。いつの日か、この浜辺にも青い海ときれいな砂浜が戻り、海と親しみ、自然と共生できる日が来ることを願いながら、各町内のあちらこちらで今も奉仕活動が行われています。



4 アユが上る「清流庄川」の環境を守る 大門漁業協同組合

大門漁業協同組合では、今年も大門小学校の2年生の親子20組を対象に、アユの放流・育成を通して清流庄川の環境を守ることの大切さを理解してもらうことを目的として、庄川の水環境の学習と施設見学会、そしてアユのつかみ取りを行いました。今回の取組みは、地元の庄川でどのような漁業が行われているのかをわかりやすく、楽しく理解してもらうだけでなく、10月に射水市をメイン会場に行われた「第35回全国豊かな海づくり大会～富山大会～」の機運醸成を図ることも併せて企画しました。

当日は、当漁協の施設を見学。アユの中間育成や、堀岡養殖漁業協同組合等と共同で研究している射水産サクラマスの養殖について説明し、水槽で育てているサクラマスの稚魚にえさやりの体験を親子でもらいました。その後アユの生産や庄川での漁業について

説明するとともに質問も受けました。その後、庄川の河川敷に場所を移し、アユが大きく育つための庄川の環境の大切さ、その現状を説明。庄川の環境保全をみんなで意識し、実行することが富山湾の美しい環境の保全につながることから、一人ひとりが環境への意識を高めてほしいと訴えました。この後、庄川水辺の交流館に場所を移して、アユのつかみ取りを行いました。昨年よりも大きく作成した特製の浅いプールに放したアユは泳ぎも速く、児童のみなさんも最初はなかなか捕まえることができませんでしたが、次第にうまくコツをつかみ、あっという間に全部捕まえてしまいました。最後に捕まえたアユを塩焼きにしてほおばった児童と保護者のみなさんからは「楽しく勉強になった」との声も聞かれました。



5 育てる漁業を体験しよう!!

堀岡養殖漁業協同組合

堀岡養殖漁業協同組合では、射水市内の小学生に養殖施設の見学と稚魚の放流を通して、養殖漁業、地場産食材のこと、そして養殖し放流した稚魚が育つための海の環境を守ることの大切さを知ってもらうため「育てる漁業体験」を行っています。

稚魚放流は、昨年10月24日、25日に開催された「第35回全国豊かな海づくり大会」の県内リレーイベントの一環として6月に実施しました。放流したトラフグは、近畿大学で生まれた稚魚で、当組合において育てていることから、「近大・堀岡トラフグ」の名で出荷されているものです。放流を行ったのは、堀岡小学校の児童ら。近畿大学水産試験所富山実験場を見学し、職員から養殖魚についての取組の説明を受けた後、トラフグの稚魚およそ1,000匹を船上から「元気に育ってね!」と声をかけ富山湾に放流しました。また、放流した海の美しさを守ってたくさんのトラフグが大きく育つための水環境の大切さを実感しているようでした。

2月には、作道小学校の児童とその保護者を対象に、養殖施設の見学を行いました。

ここでは、射水市がブランド化を進めている射水産サクラマス飼育方法や生態について当組合の飼育員から説明を行いました。

そして、ここから場所を海竜マリーナのそばにある、JF しんみなと海老江支所に移し、射水市内にある鱈寿司製造業者「丸龍庵」の協力を得て、射水産サクラマスを使って富山県の代表的な食べ物であるますずし作りを体験。丸龍庵の職員の指導を受けて、児童らは保

護者と一緒に笹を並べ、酢飯を桶に入れ、酢で締めたサクラマスの身を置くなど、一連の作業を慎重に行いました。最後に、桶からはみ出た笹で包み混んで蓋をしたところで、ゴムバンドで押さえて完成。「思ったよりも簡単だった」、「おいしくできたかな」といった声も聞かれ、有意義な時間を過ごしてもらえたと考えています。



6 環境を学ぶ・環境から学ぶ

放生津小学校

総合的な学習の時間に「環境を学ぶ・環境から学ぶ」をテーマに、身近な環境の調査活動、保全活動に取り組んだ。この活動のスタートとして、環境問題についての調べ学習を行った。当初は、「地球温暖化」や「二酸化炭素」等の言葉は聞いたことはあるが、詳しくは分かっていない子供が多かった。しかし調べ学習を続けるうちに、現在の地球は様々な問題を抱えていること、その問題の多くは私達人間の活動によって起こっていることを学んでいった。そして、「私達も地球環境を守るために、できることをやっこう」という気持ちが高まっていった。

そこで、自分たちには何が出来るかを考え、ポイ捨て防止を呼びかけるポスターやのぼり旗を作成したり、地域の公園にごみ箱を設置してポイ捨てを減らそうとしたりといった活動を展開した。また、環境チャレン

ジ10に家庭のエコリーダーとして取り組み、自らエコ活動に取り組むだけでなく、家族にもエコ活動を呼びかけた。さらに、環境問題についてこれまでに学習してきたことや、今年度のエコ活動の成果を学習発表会で発表し、地域の方々にも環境保全を呼びかけた。

現在も子供たちは水や電気の使い方を日々考え、実践する姿が見られる。活動を通して身近な環境から多くのことを学んだ1年間であった。



7 豊かな海づくり報告

堀岡小学校

本校では、昨年より『かがやけ堀岡いのちの水族館』を設置し、堀岡養殖漁業協同組合の協力のもと、「堀岡の海に棲息する魚の飼育活動を通して、生き物を愛しむ心を育むとともに、生命について考えられるようにする」、「堀岡の養殖漁業について触れたり豊かな海づくりにかける人々の思いを知ったりすることで、自らも堀岡の豊かな海づくりに向けてできることに取り組もうとする態度を育てる」ことをねらいとして活動に取り組んでいます。

子供たちは、水槽の周りに来ては「カワハギが自分よりも大きなエイをつついていたよ」、「カニが砂の中から目だけを出してじっとしているけど動くとき速いよ」、「堀岡の海にはこんなにいろいろな魚が住んでいるんだ」等、いろいろなことを発見し目を輝かせて、堀岡の海をとて身近で親しみのあるものとしてとらえられるようになってきています。堀岡養殖漁業協同組合の坂東さんに飼育の仕方を教えてもらっていますが、海水魚を飼育することはなかなか難しいことです。子供たちは魚の死を通して、いのちを育むことの大変さといのちの尊さを学ぶこともできています。

今年度も10匹のトラフグをいただき、放流するま

での1か月間飼育をしました。トラフグの稚魚を水槽に入れてもらうと、子供たちの歓声が上がります。成長していくトラフグに愛着をもつとともに、養殖漁業にも関心が高まってきています。そこで、今年は、地域の自慢を調べている4年生の児童が、堀岡養殖漁業協同組合で飼育体験活動をさせていただきました。ヒラメを他の水槽に移す作業と、サクラマスのえさやり作業です。職員の方から話を聞き体験をさせていただくことで、養殖漁業に携わる方の努力や工夫、そしてその意味について考えることができました。

今後もこのような体験や活動を積み重ねていくことで、自分たちのふるさとを自慢に思い、この豊かな海を守り育てていこうとする気持ちを高めていってくださることを願っています。



8 川の森づくり活動報告ーふるさとの自然を守り、育て、伝えていこうー 小杉小学校

本校の「川の森づくり活動」は、平成 24 年度に全校から興味のある児童を募り「川の森づくりクラブ」として発足した。平成 25 年度からは、児童会の委員会活動に位置付けられ「川の森づくり委員会」として水草栽培や水生生物等の飼育、生息状況の調査等の活動を続けている。今年度は、昨年度新たに試みた「街中ビオトープづくり」や「水草ふれあい教室」を継続し、全校に地域の自然を守ることの大切さについて呼びかける活動にも重点を置いて取り組んだ。

夏休み中に実施した「水草ふれあい教室」では、地区の用水路に出かけて観察を行った。子供たちは水草だけでなくメダカやヤゴなどを発見し、限られた環境の中でも精一杯生きている姿に驚きと喜びの声を上げていた。さらに、学校に戻り、お気に入りの水草で「ボトルアクアリウム」を作った。富山県中央植物園の中田園長さんから、水草の特徴や植え付け方を教えていただきながら自分だけのアクアリウムをつくり、水草との関わりを楽しんだ。

「街中ビオトープづくり」では、昨年度水草を植え付けた水路の調査活動を行ったところ、多くの水草が立派に根付いていることが確認できた。子供たちは自分たちの試みに手応えを感じ、自信を深めていた。そ

して調査結果を基に、増えすぎている水草は取り除き、新しく育てたい水草を植え付ける計画を立てた。作業当日は、中田園長さんや水草アドバイザーの方だけでなく、たくさんの地域の方にも協力していただきながら「今年もうまく根付きますように」と願いを込め、丁寧に植え付けていった。

全校や地域に発信する活動では、自分たちの活動に興味・関心をもってもらえるよう、水草に関するクイズで「クイズラリー」を企画したり、お気に入りの水草を選ぶ「総選挙」で全校に参加を呼びかけたりして工夫を凝らした。また、夏休み中には、「コカ・コーラ環境教育賞（活動表彰部門）」にノミネートされ、代表児童が北海道で行われた最終選考会で活動紹介を行い、優秀賞を受賞した。そのときの発表を活用して、学習発表会で保護者や地域にも活動を紹介し、自分たちの思いをより幅広く伝えようと努力を重ねている。

この1年、子供たちは「ふるさとの自然を守り、育て、伝えていこう」というテーマのもと活動を続けてきた。今後もそのテーマを受け継ぎ、地域の協力を得ながら水環境の保全意識を高めていくことができるよう取り組んでいきたい。



9 ふるさとの水で育つ大門っ子 大門小学校

旧大門小と浅井小、櫛田小が統合され、現在の大門小学校ができて今年度で10年。この間、一貫して取り組んできたのがふるさと学習です。特に水資源を利用したふるさと学習は本校の特色として誇れるものとなっています。

学校に入るとすぐに目に付くのが大型水槽連です。

創校当初に設置されたこの水槽コーナーは「キラキラ水槽」と名付けられ、歴代飼育委員会児童の手で管理されてきました。今では本校の子供たちにとって憩いの場となっています。ここでは、ふるさと大門地区に生息するトミヨやフナ、コイ、アユカケ等の多様な魚、さらにはセンニンモ、カワゴケ等の貴重な水性植物を見ることができます。トミヨの巣作りの時期には多くの子供たちが水槽を覗き込み、環境への関心をより一層高めています。

地域の水と関わる活動も継続的に行っています。

3年生では、地元水産関係者から人と鮭の関わりを学び、4年後に再び庄川に帰ってくることを夢見て、自分たちの手で卵を孵化させ稚魚を放流する活動を行っています。

4年生は、地域の清流「親司川」のアシツキ、梅花藻等の群生地の確認、「鴨川」の水生生物の生育調査を行います。子供たちは、これらの活動で捕獲したトミヨやシマドジョウ、ホタルの飼育を通して、水環境を守ることの困難に立ち向かっています。3年前から取り組んできたホタル飼育は、ホタルの産卵と孵化、幼虫のビオトープ放流を行うまでになりました。この活動は次の4年生へと引き継がれます。

こうして本校の子供たちは、校区のすばらしい環境を知り、自然を大切にする心を培って社会へと巣立っていきます。

